

80年の伝統と革新を凝縮した新棟(西棟)が完成

昭和11年頃は、瀬戸市一帯の地域には病院がなかったことから、「当地域で何とか病院を創設したい」という住民の方々の強い要望の元に、9,000人もの人々が一口10円という当時としては大金を出資することによって、公立陶生病院は設立されました。地域の皆さんにとっての「おらが病院」は、当院の根本を流れる思想です。その後約80年という長い年月において、公立陶生病院は常に地域住民と寄り添いながら進化を遂げて参りましたが、「地域のための病院」という立ち位置はまったく変わっておりません。日本に公立病院は数多くありますが、地域住民の動きで設立された病院は珍しい存在です。このような背景があるからこそ、「主役は地域住民」という思いを当院の職員は特に強く持っているのです。こうした背景は、古くから地域医療連携に積極的に取り組んできた姿勢にも現れています。当院の病診連携は、昭和41年に瀬戸医師会と当院が救急制度を含めた当直制度についての分担を協議し、実行したことに始まります。以来、40年を超える歴史を踏まえて、この医療連携のさらなる発展に努め、「主役は地域住民」という思いを基に、地域完結型の医療の実現に取り組んでおります。

病院が地域住民から求められるものは数多くありますが、「どんな時でも診てくれる病院」はその中でも筆頭に挙げられるのではないのでしょうか。「24時間365日どんな診療にも応じられる医療」を大切な使命として展開してきた当院の姿勢の原点は、ここにあります。

この大切な使命を果たすべく救急医療に力を注いできた当院にとって、永年の課題であった“救命救急センター”も、県の指定を受けて、新棟(西棟)の運用と時を同じくして平成26年1月1日より稼動いたしました。

西棟は、進歩する医学や医療ニーズの変化に対応するため、「救急医療部門の強化」、「災害対応の強化」、「院内の利便性と快適性の向上」など、急性期医療を中心に幅広い診療機能を持つ地域中核病院としての医療サービスの充実を図っており、地下1階、地上9階、屋上にドクターヘリや愛知県の防災ヘリコプターが着陸可能なヘリポートも設置した202床の病床を持った延床面積18,000㎡の免震構造の建物であります。1階の救命救急センターには緊急手術をそのまま行える外傷初療室をはじめ、レントゲン室や128列CT室、X線透視室、内視鏡室といった高度診断機器を初療室近くに配置し、待たなしの診療を迅速に行えるように機動性の高い設計としました。2階は2室の心臓血管撮影室と1室の多目的血管撮影室より成る血管撮影部門を集中治療部門(ICU、ERICU部門)と同一フロアに設置することで、重症患者の移動導線を極力短縮しました。また、合計20床の集中治療室部門は十分のスペースと最新の設備と高度医療機器を備えております。3階の中央手術部は、最先端医療を提供すべく将来的に新しい医療機器が導入し

やすいように、空間には余裕を持たせた設計としました。最も広い手術室の面積は77㎡あり、将来的には、外科手術と内科手術の血管内治療(カテーテル治療)が同時にできる”ハイブリッド手術”にも対応可能な部屋も設けて、最先端の手術室を10室設けました。中部地区の公立病院で初の導入となった内視鏡支援ロボット“ダ・ヴィンチ”もここに移設します。4階は、がん診療機能の充実を考慮して病理診断部門に十分なスペースと最新の設備を設けました。また、垂直回転棚と専用エレベーターで手術室に上下で直結した中央材料室を配置し手術治療の迅速化と効率化を図りました。5階から8階は心臓血管センターをはじめとする外科、脳神経外科、泌尿器科などが入る4つの急性期病棟を積層させることで、救急医療の根幹を成す部門の機能を強化しております。これらの救急医療部門間は、複数の救急専用エレベーターの設置により迅速な移動を可能とし、各部門の連携強化を図っております。西棟の完成稼動により、地域災害拠点病院、地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院など、当院の地域中核病院としての機能も、ますます充実したものになり、高まる地域の期待に応えうるものと確信しております。

これから超高齢化社会を迎えるにあたり、高齢者にとってわかりやすく使いやすい病院であることはもとより、周産期・小児医療の強化充実、災害時における多数の傷病者の受け入れ体制の確立など、地域の基幹病院には、より一層の機能の充実・整備が求められます。こうしたことから、当初は改修のみに留める予定でありました中央棟と外来棟も、南棟以外は全面建替えに着手することにいたしました。新々棟の規模は、西棟と同じく地下1階、地上9階建の免震構造で、延床面積35,500㎡と西棟の約2倍の床面積を有する建物を現時点では考えており、完成したばかりの西棟の東隣に建設し、5年後の完成を目指しております。整備方針は大きく分けて、「周産期・小児医療の強化充実」、「外来機能の充実」、「病棟機能の充実」、「災害時における事業継続性の確保」の4点に集約されます。

建替え事業がすべて完成する暁には、尾張東部医療圏内で唯一の公立病院として、また、市民の健康を守る殿堂として、地域の皆さんの期待に応えられる良質かつ充実した機能を最大限に発揮できるすばらしい病院となっていることと思います。

これからも地域に根ざした中核病院として、公立陶生病院は地域の皆さんの命と健康を守るために、その期待に全力で応えてまいります。

院長 酒井 和好